

3 林道

林道は、木材の運搬や森林造成のための道路として、また、地域の生活道路や森林レクリエーションに利用され、農山村地域の生活環境の改善に大きな役割を果たしている。

令和5年度末の林道延長は300.1kmで、林道密度は4.0m/haとなっており、全国平均4.9m/haの82%である。



チイバナ林道



奥Ⅱ号林道

4 治山

水源かん養、災害の防止等森林の多面的機能を発揮させるため、保安林の造成や改良等の森林整備、荒廃山地等の復旧や予防対策等を実施している。

事業費（千円）

事業名	R3		R4		R5	
	箇所数	事業費（千円）	箇所数	事業費（千円）	箇所数	事業費（千円）
復旧治山事業	0	0	0	0	1	37,584
緊急予防治山事業	6	213,088	3	104,304	3	149,145
海岸防災林造成事業	5	99,457	5	142,511	2	52,150
防風林造成事業	2	46,992	3	81,274	1	58,434
保安林緊急改良事業	1	13,550	1	18,693	0	0
保安林改良事業	2	5,756	2	6,863	0	0
保安林総合改良事業	0	0	0	0	1	3,340
水源の里保全緊急整備	1	41,494	0	0	0	0
保育事業	8	34,569	10	37,630	9	30,138
予防治山事業	6	181,262	5	147,563	8	267,265
機能強化・老朽化対策事業	1	23,234	0	0	0	0
災害関連緊急治山事業	0	0	0	0	1	104,891
林地荒廃防止施設等災害復旧事業	0	0	0	0	1	111,463
緊急自然災害防止対策事業	0	0	1	33,398	2	49,064
計	32	659,402	30	572,236	29	863,474



緊急予防治山(国頭村)



防風林造成(宮古島市)

5 保安林

本県では、森林面積の約3割に当たる30,649haが保安林に指定されており、県土の保全、水資源のかん養及び保健休養の場として広く県民に利用されている。

保安林の指定状況を目的別にみると、水源かん養が23,123ha(75%)、潮害防備が3,728ha(12%)、以下、土砂崩壊防備・防風・干害防備・土砂流出防備等の順となっており、本県は島しょ性であることから、他都道府県と比較して潮害防備の指定面積の多いことが特徴である。

保安林の指定状況(令和6年3月末現在)

	総面積(ha)	割合(%)	種別		割合
			種別	面積(ha)	
国有林	17,719	57.8	水源かん養保安林	16,422	53.6
			土砂崩壊防備保安林	635	2.1
			潮害防備保安林	271	0.9
			保健保安林	303	1.0
			その他	88	0.3
民有林	12,930	42.2	水源かん養保安林	6,701	21.9
			土砂流出防備保安林	650	2.1
			土砂崩壊防備保安林	178	0.6
			防風保安林	718	2.3
			潮害防備保安林	3,457	11.3
			干害防備保安林	720	2.3
			風致保安林	408	1.3
			その他	98	0.3
計	30,649	100.0	-	30,649	100.0



潮害防備保安林(国頭村)

資料：沖縄県森林管理課「沖縄の森林・林業」

6 森林保護

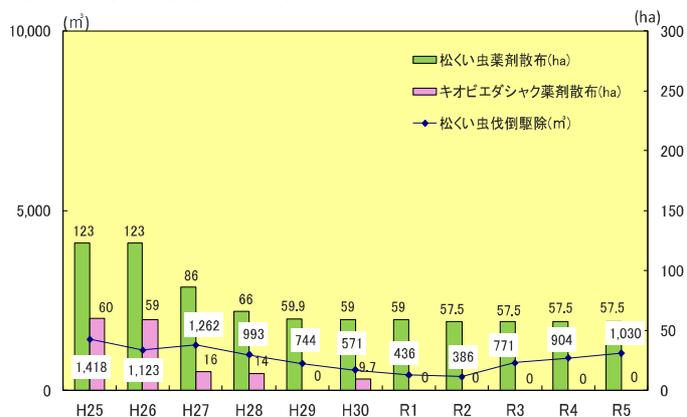
本県は、温暖な気候条件から多種多様な昆虫が生息するため、年間を通して森林病害虫が発生しやすい環境にあり、健全な森林の育成のためには、病害虫対策は重要である。

主な森林病害虫には、リュウキュウマツ林に重大な被害を与えている「松くい虫」やイヌマキを食害し枯死に至らせうる「キオビエダシヤク」等が挙げられる。

松くい虫の防除について、県及び市町村では、県土防災上重要な保安林など公益性の高い松林への重点的な防除対策を実施するとともに、景観保全対策として幹線道路沿いの被害木の伐倒処理及び巨樹・老木といった貴重な松への樹幹注入を実施するなど、リュウキュウマツの保護に努めている。

また、県森林資源研究センターにおいては、総合的な松くい虫防除対策のため、抵抗性マツの育種・選抜及び生産、天敵昆虫防除技術の研究を進めている。

森林病害虫防除の実績



今帰仁村仲原馬場(県指定史跡)

松くい虫対策のための樹幹注入の継続的な実施により保全された貴重な松林。

7 特用林産物

特用林産物とは、森林で産出される産物のうち、木材を除く品目の総称であり、本県の特用林産物には、きのこ類、たけのこ、木炭等がある。

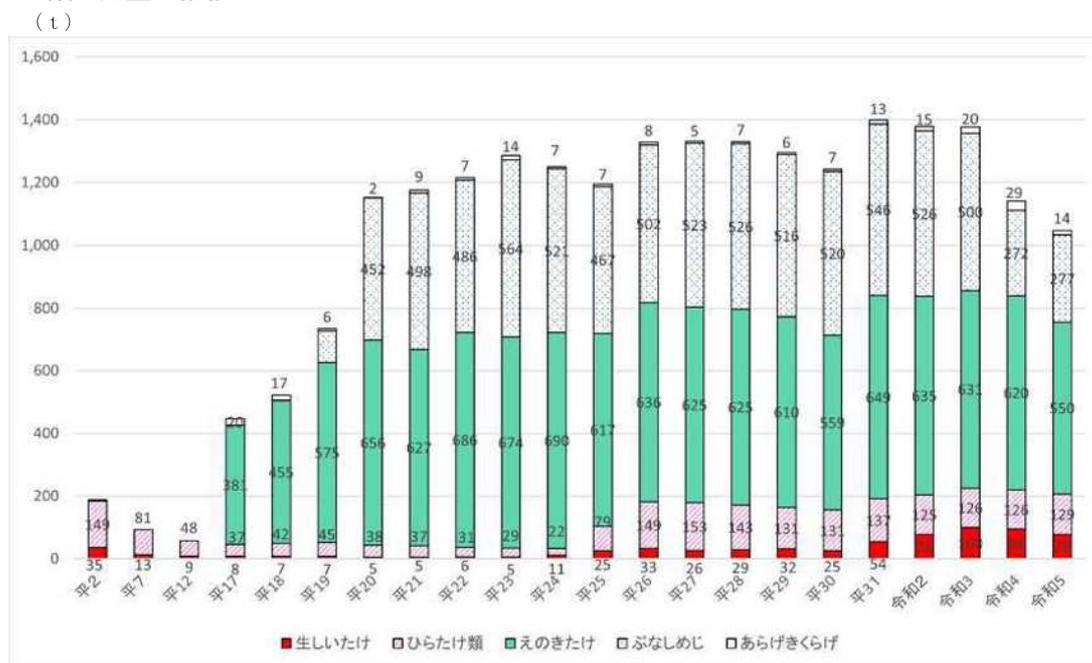
きのこ類については、平成14年度以降、北部地域でえのきたけ、ぶなしめじ、エリンギ、菌床しいたけの生産施設が相次いで整備され、本県のきのこ類の生産量を大きく増加させた。

特に近年は、食の安全への関心の高まりの中で、県産きのこへの需要が高まってきている。

また、県では県産きのこの認知度向上と消費拡大を目的として「沖縄きのこ」のロゴマークを平成30年10月に商標登録した。今後は、生産者へロゴマークの添付を推進すると共に、店頭販売やチラシ等に広く活用し、県産きのこのブランド化に取り組んでいく。

木炭については、平成2年の765tをピークに生産量は減少し、近年は100t台で推移していたが、令和4年は54tと、調査開始以来最小値となった。

きのこ類生産量の推移



資料：沖縄県森林管理課「沖縄の森林・林業」

注1：「ひらたけ類」は、くろあわびたけ、うすひらたけ、エリンギである。



えのきたけ



ぶなしめじ

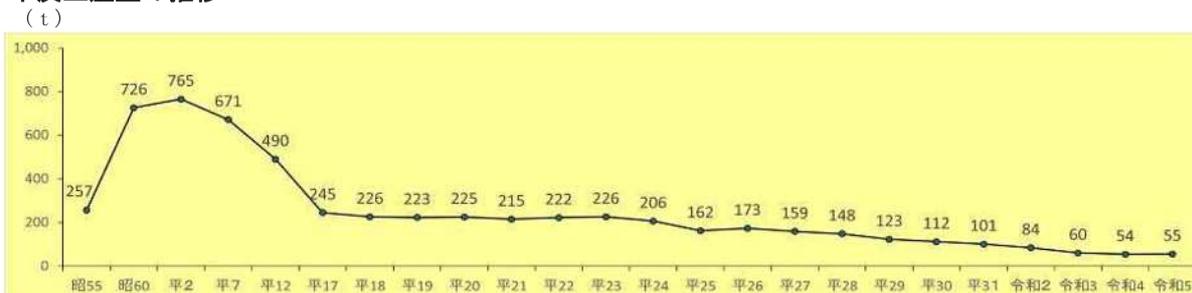


菌床しいたけ



沖縄きのこロゴマーク

木炭生産量の推移



資料：沖縄県森林管理課「沖縄の森林・林業」

注：粉炭、竹炭も含む。

8 木材需給

本県の令和4年度における県産木材の供給量は4,194 m³で、その内訳は、製材1,214 m³(29%)、薪炭材等534 m³(13%)、チップ、オガ粉2,447 m³(58%)となっている。

県産木材は、従来は主に製紙パルプ用のチップの他、木炭原木、しいたけ原木等として用いられてきたが、現在は、畜産敷料や菌床きのこの培地としてのチップ、オガ粉の需要が高まっている。

一方で、県としては、近年の木材加工技術の発展や作り手の技術向上等を踏まえ、家具や食器、さらに建築内装等、付加価値の高い用途である製材の利用拡大を目指している。

今後も引き続き、関係者と連携しつつ、県産木材のブランド化に取り組んでいく方針である。

県産木材供給量の推移

(単位：m³)

	合計	製材	薪炭材等				チップ	オガ粉
			木炭原木	しいたけ原木	その他	小計		
平成元年	26,728	5,146				6,187	15,395	
6	12,019	2,737	5,444	617	30	6,091	3,191	
11	11,370	1,496	2,940	364	832	4,136	5,738	
16	10,319	1,341	1,480	213	1,586	3,278	2,835	2,865
21	5,812	957	1,595	44	1,003	2,642	1,209	1,004
22	4,587	785	1,625	36	888	2,549	510	743
23	4,713	1,617	1,573	21	302	1,896	517	683
24	5,365	1,923	1,485	21	253	1,759	1,001	682
25	6,063	2,101	1,423	-	235	1,658	1,657	647
26	5,267	1,820	1,330	-	298	1,628	1,009	810
27	4,548	1,372	1,184	-	391	1,575	613	988
28	4,668	1,046	939	-	293	1,232	1,049	1,344
29	8,728	970	1,420	-	223	1,643	5,281	834
30	7,845	855	1,374	-	212	1,586	4,612	792
令和元年	6,538	693	1,294	-	157	1,451	3,821	573
2	6,212	683	1,198	-	46	1,244	3,617	669
3	6,471	1,487	814	-	47	861	1,099	3,023
4	4,194	1,214	410	-	124	534	1,577	870

資料：沖縄県森林管理課「沖縄の森林・林業」

1. 平成元年の薪炭材等の小計には木炭原木、しいたけ原木、その他を含む。
2. 平成27年までの薪炭材等のその他は、薪、家具挽物材を含むが、平成28年度以降は薪のみとし、家具挽物材は製材として計上。
3. 県産木材供給量は、原木換算した量とする。
4. 合計と内訳の計が一致しないのは、四捨五入によるものである。



東京都主催 WOOD COLLECTION2024 への出展



森のめぐみの環境セミナー



木育キャラバン in 首里城

9 沖縄県県民の森

森林は水源かん養、災害防止機能のほか、豊かな自然環境を創造し、県民が潤いと安らぎのある生活を営む上で、重要な役割を果たしている。

このような森林の果たす役割を県民に感じてもらい、四季折々の森林とのふれあいの場、安らぎの場を提供するため、「沖縄県県民の森」を昭和61年に恩納村安富祖に開設し、遊歩道、木のふれあい館、森のふしぎ館、キャンプ場、冒険広場、スポーツの森等を整備した。

平成28年には、祝日「山の日」が制定され、令和3年7月には沖縄本島北部と西表島を含む地域が世界自然遺産に登録されるなど、森林に対する関心の高まりと併せて、森林・林業へのニーズも多様化しており、県民の森も、本来の役割を強化しつつ、観光の振興、教育や地域経済にも貢献しうる施設の管理運営が求められている。



キャンプ場



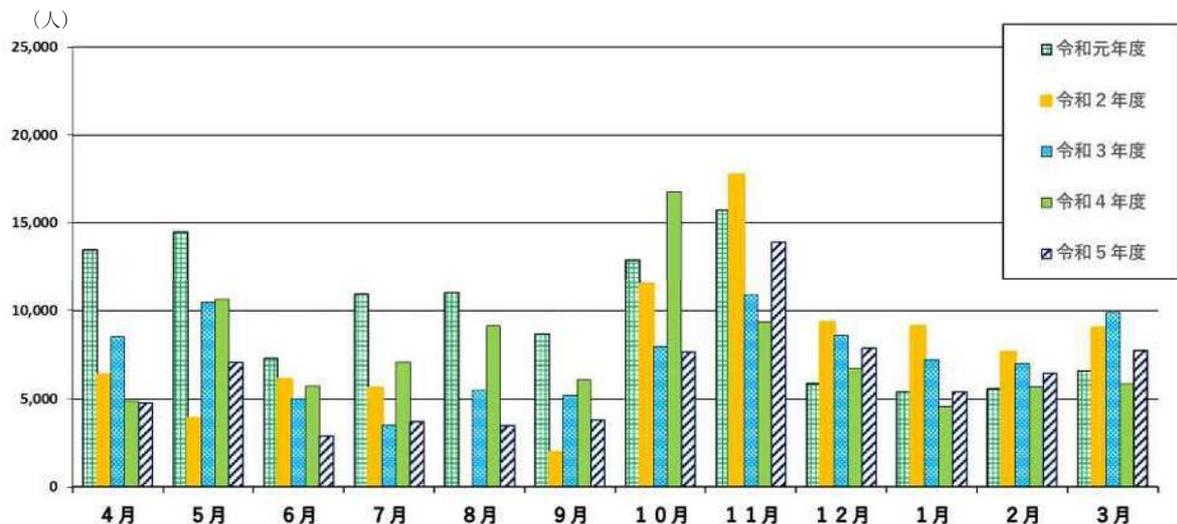
木のふれあい館1階

【主な施設】

総合案内棟	291m ²	キャンプ場	23,159m ²	中央広場	13,400m ²	冒険広場	18,000m ²
木のふれあい館	668m ²	森のふしぎ館	450m ²	用具貸出棟	117m ²	遊歩道	3,265m ²
スポーツの森	10,000m ²	花木園	14,000m ²	炊事棟	47m ²	木炭釜	2基
パークゴルフ場	7,937m ²	桜園	6,700m ²	市町村の森	4,000m ²	駐車場	4,480m ²

資料：沖縄県森林管理課「沖縄の森林・林業」

【令和元年度～令和5年度 県民の森月別入園者数】



資料：沖縄県森林管理課「沖縄の森林・林業」